

文化面でも 大きな出来事が 目白押し!

今年度、和歌山県では、スポーツ面で大きなイベントが目白押しでしたが、文化面でも大きな出来事がありました。

「新宮の速玉祭・御燈祭り」が国指定重要無形民俗文化財に!

平成28年1月15日、国の文化審議会は、世界遺産・熊野速玉大社の祭礼「速玉祭」と神倉神社の祭礼「御燈祭り」を、国の重要無形民俗文化財に指定するよう、文部科学大臣に答申しました。

正式な指定は3月上旬に行われる予定で、これにより県内の国指定重要無形民俗文化財は7件となります。

このうち「速玉祭」は、毎年10月15日・16日に行われ、熊野速玉大社の神様が、15日には神馬、16日には船に乗り、新宮市内の大社ゆかりの聖地を巡ります。

また「御燈祭り」は、毎年2月6日に白い衣裳を着た「上がり子」たちが、それぞれ願いを込めた松明に神倉神社の御神火をともして、神倉山の急な石段を一気に駆け下る神事です。

2つの祭りは「熊野速玉大社祭事保存会」によって保存・継承されています。



速玉祭(御船祭)の一場面



御燈祭り

「南方曼陀羅の風景地」が国名勝に指定!

植物学・民俗学・博物学の分野で世界的に著名な南方熊楠(1867~1941)は、近代日本の風景の保護に先駆的な役割を果たしました。南方熊楠は、自然生態系の保護の重要性を主張し、明治政府の神社祀政策への反対運動に取り組む中で、特有の天然風景の中にある様々な現象を、真言密教の本質を示す「曼陀羅」になぞらえ、多様な生態系に基づく風景美の発見に新たな視点をもたらしました。

「南方曼陀羅の風景地」は南方熊楠が将来に遺すべきとした神社境内の林や、島・海浜等の景勝地から成り、観賞上及び学術上の価値が高いものです。そのうち、今回は天神崎や神島など13地点が国名勝に指定されました。



神島(田辺市)



旧和歌山県会議事堂

旧和歌山県会議事堂の保存整備工事が3月末完成します

明治31年(1898)に完成した旧和歌山県会議事堂は、木造和風の県会議事堂として最も古い建造物であり、県政史にとって重要な文化財です。県は、旧議事堂を建築当初の姿に戻し、移築する工事を平成24年度から岩出市で行ってきました。工事では日本の伝統的な技法を用い、古い材木を補修して再使用し、壁も土を塗り重ねて乾燥させ、漆喰で修復しました。完成した旧県会議事堂をぜひ、ご覧ください。

エルトゥール号遭難事件がきっかけに生まれた 日本とトルコ両国の絆が映画化されました!

平成27年12月から、全国の映画館で『海難1890』が上映されています。この映画では、1890年、トルコ軍艦「エルトゥール号」が和歌山県樫野崎で暴風雨に巻き込まれ座礁沈没した際、大島村(現串本町)の住民たちが自らの危険を顧みず、生存者の救助に当たり、69名の命を救った出来事、そして、時は流れ1985年、イラン・イラク戦争でテヘラン

に取り残されていた日本人をトルコが航空機で救出した出来事をもとに、現代まで受け継がれている日本とトルコ両国の絆が描かれています。

また、この映画は、文部科学省選定映画(教育上価値が高く、学校教育又は社会教育に広く利用されることが適当と認められるもの)・和歌山県教育委員会推薦映画に選定されています。

『海難1890』の鑑賞を通して、ふるさとの先人の偉業と紀州人の真心を心にとどめてほしいと願っています。

きのくに 教育めぐり 教育長挨拶



今回は **みなべ町**



みなべ町は、紀伊半島南部に位置し、青く輝く太平洋に面し、一目百万、香り十里といわれる梅の里です。

日本でも有数のアカウミガメの上陸数をほこる「千里の浜」には、君が代にうたわれる「さざれ石」が見られ、熊野古道の中で唯一海岸を通るルートとなっています。

また、昨年世界農業遺産に登録された「みなべ・田辺の梅システム」は、自然を人間の手でコントロールするのではなく、敬意と感謝の心で守り育ててきた、先人

たちのたゆまない努力が世界的に認められ、本町にとっても次世代へ受け継ぐべき輝く指針となっています。

みなべ町では、「未来」を創造するたくましい子供の育成を目標に、確かな学力の定着のみならず、故郷に誇りを持ち、人の気持ちに寄り添うことのできる健康な心と体を鍛えるため、学校・地域社会・保護者・教育委員会が共に同じ方向を見据え、一体となった取り組みを進めています。

みなべ町教育委員会 教育長 豊田 泰猛

地域に守られて

～つれもて行こら～ 通学合宿の取り組み

通学合宿とは、子供たちが公民館などで寝泊りし、普段は保護者に頼りがちな炊事や洗濯などを自分たちで行いながら学校へ通うという取り組みです。

みなべ町では、平成19年から全ての小学校区で開催しています。

この事業は、共同生活を行うことで集団生活への適応能力や自主性、自立心、仲間意識を育てることを目的としていますが、もう一つの大きな目的が、地域の方々との交流です。

子供たちは、調理の指導、買い出しやお風呂の送り迎えなど、地域の“おじさん”や“おばさん”たちのサポートを得ながら2泊3日を過ごします。

普段あまり会話を交わす機会が無いであろう“おじさん”や“おばさん”たちと生活を共にすることで、地域社会とのつながりが深まります。

近い将来、子供たちは地域社会の担い手となります。通学合宿で育まれた、ふるさとの愛着と、互いの協調性や社会性を存分に活かしてくれるよう、願って止みません。



みなべの梅学習



みなべ町立岩代小学校では、地域の協力を得て、梅に関する調べ学習や、児童全員で「しそ漬け梅干し」を作る体験を含めた学習に取り組んでいます。

活動は1年生から6年生まで全児童縦割り班で行い、梅拾い、塩漬け、天日干し、樽詰め、塩抜き、しそ漬け、ラベル作り、カップ詰め等の作業を、保護者や地域のゲストティーチャーの協力を得ながら行っています。

最後の活動では、自分たちで作った「しそ漬け梅干し」で梅おにぎりを作り、味わうことを通して、完成した喜びをみんなで共有しています。

できあがった梅干しは、東日本大震災被災地の宮城県東松島市立宮戸小学校・宮城県亶理郡亶理町立高屋小学校や宮城県気仙沼市の仮設住宅へ寄贈しています。

また、新潟県南魚沼市立第二上田小学校と「お米と梅干し」での交流活動も始めました。

こうした体験活動、交流活動を通じ、コミュニケーション能力や表現力の育成を図るとともに、地域の産業や文化を知り、地域の良さを再確認し、郷土を誇りに思う児童を育てる学習に取り組んでいます。



ン能力や表現力の育成を図るとともに、地域の産業や文化を知り、地域の良さを再確認し、郷土を誇りに思う児童を育てる学習に取り組んでいます。